

# ふるさと探訪

県指定重要文化財（彫刻）

## 木造薬師如来坐像（一 軀）



像 高 五十三・四センチメートル

ヒノキ材の寄木造で、右手施無畏印、左手に薬壺を持つ。

漆箔で右肩・左右袖・膝部ではぎ合わせる。玉眼嵌入であったが、現在は失われている。頭部に肉髻低く、螺髪は切付けで、髪際線は面部の正面で軽く下方に曲線を描く。耳朶の張りもよく、鎌倉時代末期作の特徴をよく示している。

なお、面頸部に、「仏子院營」、その下方に、「檀那隆連比丘善来造立」、背部に、「□□三年丙寅□月廿八日」の銘があり、常磐湯本惣善寺の阿弥陀如来像の銘との関連で、正中三年（一二三六）の造立であることが明らかである。また、膝裏に、「応永二十一年（一四一四）十一月二十二日」の修理銘がある。

院營は、横浜市金沢区慶珊寺の十一面観音（正慶元年（一二三二）銘・国重文）の作者と同一とみられる。

この像は、昭和十九年九月六日重要美術品に認定されている。

所在地 いわき市小名浜住吉字新町6番地

所有者 保福寺